

主 題：困難の中で勝利を見出す

聖書箇所：サムエル記第一 19章11-18節、20章35-42節
詩篇59篇、11篇、64篇

ジョン・バネット師の紹介

2008年からミシガン州・カラメズー市のグレイス聖書教会の主任牧師。34年以上に渡り、牧師としてミシガン、ジョージア、ロードアイランド、カリフォルニア、オクラホマで主に仕えて来られた。1998年より「聖書を明らかにする」という働きを始める。彼のメッセージはラジオを通して、毎日、アメリカ、ヨーロッパ、また、カリブ海で放送されている。そして、宣教師、また、伝道師として、これまで世界60ヶ国で奉仕をされた。ボニー夫人との間に8人のお子さんが与えられている。

妻とともに皆さんとごいっしょにこのように過ごせることは感謝です。皆さんはこの日本という素晴らしい国の国民であられ、私はアメリカの国民です。しかし、みことばが教えることは、私たちはすべて天の国民であることです。そして、私たちはともに同じところにあつて主を崇めると約束されています。私はこの地球の反対側にいますが、同じときに皆さんがここで主を崇めておられる、そのことを考えると本当に主に感謝をささげたくになります。

今日、皆さんにみことばをお教えしたいのですが、先ず、皆さんに私と近藤牧師がどれ程似通ったところがあるのかをご紹介します。私が住んでいるところは近藤牧師が行かれた神学校から約1時間ほど離れたところ。そして、近藤牧師が卒業された神学校で私は教鞭を執っていました。私たちは同じ年齢で、体型も同じです。私が今日着ているシャツは彼のシャツです。私たちの共通点は、神のみことばを愛し、みことばを教えたいと思っていることです。

使徒の働き13章を開いてください。今日、皆さんにご紹介したいのは、ダビデの生涯の中で起こった一番大きな出来事です。この聖書は神がご自身の御手をもってお作りになったものです。みことばは聖書のすべてのことばは神が息吹を吹きかけて作られたと教えています。ですから、すべての箇所は偶然にできたものは何もなく、すべて神ご自身について語ります。そして、聖書の中にはある人物について最も多く語られています。父なる神、子なる神、聖霊なる神以外で、聖書の中で一番多く語られているのがこの人です。この人は私たちが経験するあらゆる困難、問題を経験しました。その人について、使徒13:22がこのように教えています。「それから、彼を退けて、ダビデを立てて王とされましたが、このダビデについてあかしして、こう言われました。『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心になつた者で、わたしのこころを余すところなく実行する。』」と。私たちはイエス・キリストを見るとき、彼が完全であったことを知っています。なぜなら、彼は神であったからです。確かに、イエスは完全でしたが、自分を見ると不完全であるのに、神はどうしてこのような者をお使いになるのかと考えます。なぜなら、私たちは余りにも弱いし、あらゆるときに失敗を繰り返す者だからです。

このみことばを見ると、ダビデは主のみこころを行なつたと記されています。同じ章の36節を見てください。「ダビデは、その生きていた時代において神のみこころに仕えて後、死んで父祖たちの仲間に加えられ、ついに朽ち果てました。」よく皆さんはご存じと思いますが、ダビデの生涯についてあることを話したいと思います。ダビデは確かに140以上の章に記されています。それゆえに、私たちは彼が何をしたのかを知っています。みことばを見ると、ダビデは十戒の十の戒めをことごとく破っています。ご存じの通り、彼は7番目の戒めを犯しました。それは「姦淫してはならない。」という戒めです。ダビデがウリヤを殺したことなど、彼がしたことを聖書は教えます。それなのに、22節では「彼はわたしの心になつた者で、」と教え、36節には「神のみこころに仕えて」とあります。私たちが覚えなければいけないのは、完全でなくても主に仕えることができるということです。というのは、私たちは何度も失敗を犯しても主に仕えることができるということです。

詩篇の150篇のうち、ダビデは90篇以上を記しています。そして、その中の73篇は彼の名前が最初に出て来ます。残りの19篇は「70人訳聖書」にはダビデの作であると記されています。確かに、私たちは詩篇を見るとパズルのように思います。私たちはズグソーパズルをしますが、テーブルに広げて一つ一つのピースをくっつけていきます。先ず、箱の表紙を見ます。その写真を見て、このピースはここにくるのだなと分かります。ですから、詩篇のみことばはまさにそのパズルのように思えます。詩篇から私たちがいろいろな問題や神のすばらしさを見ます。でも、神はそのすべての詩篇の表紙になるものを与えてくれています。ダビデの生涯に何が起きているのか、そして、どの場面でそれが書かれ

たのかを教えてください。

Iサムエル19章を開いてください。ダビデは自分自身の生涯の様々なときに詩篇を記しています。Iサムエル16章ではダビデはまだ小さな子どもであったと記されています。ご存じのように、ダビデとゴリヤテの戦いが記されています。私たちはそれを読むと、どうしてあのような小さな子どもがああ巨人を倒すことができたのかと考えます。そのときに、ダビデはどのようなことを考えていたのかと考えます。ダビデはその戦いの中で詩篇を書きました。私たちにとって助けになるのは、詩篇のみことばと実際にダビデが経験していた出来事とをつなぎ合わせることです。その中の一つが、今見ようとしているIサムエル19章に記されています。19:1に「サウルは、ダビデを殺すことを、…」と記されていて、5節辺りにはヨナタンがダビデを助けようとしていたことが記されています。5節に「**彼が自分のいのちをかけて、ペリシテ人を打ったので、【主】は大勝利をイスラエル全体にもたらしてくださったのです。…**」とあります。ですから、私たちが覚えるべきことは、ダビデは大変に危険な状況の中にいたということです。

ダビデはサウル王に仕えていました。そして、サウル王はダビデにとって義父だったのです。しかし、悲しいことに、義理の父親であるサウルはダビデを殺そうとしていたのです。そして、8節「それからまた、戦いが起こったが、ダビデは出て行って、ペリシテ人と戦い、彼らを打って大損害を与えた。それで、彼らはダビデの前から逃げた。」。今日の私のメッセージのタイトルは「困難の中で勝利を見出す」です。最初に皆さんにお知らせしたいのは、ダビデがどのような状況下にあったのかです。彼は大変な苦しみの中を通っていました。そして、詩篇を見ると、ダビデがそのような大変な中でどのように勝利をしていったのかが記されています。

今日、初めに賛美した讚美歌を作詞した人物は大変に困難な生涯を過ごしました。ニアンダーという人です。この詩を書いた彼は30歳で召されます。彼は作詞家として非常に有名でドイツのある町に彼の名前が付けられたほどです。ニアンダソーの谷と呼ばれるところが実際に存在しています。この人物の名前をとって付けられたのです。神が私の健康であり助けであると1節に出て来ます。彼自身は結核を患っていて呼吸をすることが困難でした。話すこともできないほど弱っていました。最後のところでは「すべての息ある者はともに集まって主を讃えよう」とあります。でも、彼は呼吸ができないで死にかかっていた。この讚美歌が教えるのは、大変な困難を経験してもその中であって主を賛美できるということです。

11節のみことばを見てください。ペリシテ人と戦った後、ダビデは自分の家に戻って来ます。戦いに出て行ったダビデは敵に勝利を得たのです。神に用いられたダビデからペリシテ人は逃げ去り、勝利の美酒を味わいながら彼は自分の家に戻って来たのです。王がダビデを戦場に送り、ダビデは家に戻って来たのです。その王がダビデに何をしたのか？Iサムエル19:11に「**サウルはダビデの家に使者たちを遣わし、彼を見張らせ、朝になって彼を殺そうとした。**」とあります。少し考えてみてください。だれかが皆さんの家にやって来て皆さんを殺そうとする。私はそのような経験はありません。想像してください。ダビデは戦いから帰って来て、多分、返り血を浴びているからそれを洗い流しているところでしょう。窓から見るのです。ダビデの妻が彼に言います。あの向こうに見える兵士たちはサウル王があなたを殺すために送ったと。ダビデを殺すために遣わされた兵士たちはペリシテ人ではなかったのです。自分の義父からダビデは裏切られたのです。自分のいのちをかけて仕えた王からです。非常に辛かったと思います。義父に裏切られるという辛い経験、そして同時に、自分の周りは兵士たちが取り囲んでいて、身に危険が迫っているのです。

人生にはいろいろな敵があります。先ほどの讚美歌の作詞家は健康上、結核という敵がありました。ダビデにとっては彼を殺そうとしている兵士たちが彼の敵でした。ダビデが経験したこのようなものは彼に恐れをもたらしました。王に裏切られたからもう王を信頼することができなくなりました。私たちの周りには私たちを殺そうとする兵士たちはいません。でも、私たちには恐れがあります。あの作詞家のように健康への恐れを抱いている人がこの中におられるかもしれません。私たちの国においては、多くの人たちが年取ったときに実際に支払うお金が無いのではないかとこの恐れを抱いています。ダビデがサウルに裏切られたように、多くの人々が裏切られたのではないかと考えています。私の住んでいる州は自動車産業によって繁栄しています。私の幼い時から、自動車の会社に勤めている人たちは「すばらしい仕事に就いた」と皆に見られていました。大学に行く必要はない、GMで働いているなら、その当時、時給40ドルの収入があったからです。GM（ゼネラルモーターズ）は「私たちの会社で働いたあなたには、リタイアした後もすべて責任をもって私たちが面倒をみます。」と言ったのです。ミシガンに住む100万人以上の人たちはそのことを信じたのです。その後、GMは倒産します。彼らは「年金を払うことはできません」と言います。私の教会にもGMで働くすばらしいクリスチャンたちがいます。彼らはその年金を失ってしまったのです。クリスチャンであろうとなかろうと、人々はそのような裏切

りをするのです。クリスチャンだからといって、私たちに悪いことが起こらないとは決して言えません。

良くないことが起こったり、また、だれかに裏切られたときに、どういふことをするのかをダビデは私たちに教えてくれるのです。詩篇59篇を開いてください。先ず、皆さんに見ていただきのは、1節の前にある説明書きです。ヘブル語の聖書には表題が記されています。そして、これが1節になっています。表題には「指揮者のために。「滅ぼすな。」の調べに合わせて。ダビデのミクタム。ダビデを殺そうと、サウルが人々を遣わし、彼らがその家の見張りをしたときに」とあります。皆さん、ぜひ、このみことばを覚えてください。3000年前に、ダビデを殺そうとダビデの家の周りを取り囲んでいる兵士たちの姿、そのような危険に直面していた時にダビデがこの詩篇を記したということです。このような大変なことを経験しているときにダビデは三つのことを記すのです。

☆困難の中で神に対して正しい応答をするために 詩篇59篇

59:3を見てください。「今や、彼らは私のいのちを取ろうと、待ち伏せています。力ある者どもが、私に襲いかかろうとしています。【主】よ。それは私のそむきの罪のためでもなく、私の罪のためでもありません。」、私はここに鉛筆で「サムエル記第一19:11」と書き込みました。ですから、この3節のみことばも、先ほど見た表題からも、人々が彼の家の周りを見張っていた様子、彼を殺そうとしていたことを知ることができます。ジグソーパズルのことを話しましたが、表紙の写真によってそれぞれのピースがどこにヒットするのかが分かります。皆さんがもしミシガンの人たちのように、年金を失い、何の保証もないというようなことを経験されているなら、あの作詞家のように病気で息をすることもできないで、若くして死を迎えるという状態にあるとするなら、そのときに皆さんはダビデがこの詩篇を書いた時に感じていたこと、思っていたことを少し味わうことができます。

三つのレッスンを見ましょう。

ステップ1. ダビデは神に救いを求めた 1-8節

ダビデ自身が学んだことです。1節「わが神。私を敵から救い出してください。私に立ち向かう者が届かぬほど、私を高く上げてください。」、非常な恐れを抱いていたときにダビデが学んだことは「神に救いを求める」ということです。妻と私は結婚してすぐにロサンゼルスに住みましたが、私たちが住んだアパートの広告は、次のステップに移るために儉約が出来る安いアパートと出ていました。ですから、部屋の真ん中に立ってモップを持つと自分は動くことなく部屋の隅々まで掃除が出来たのです。そのとき、私たちはグレースコミュニティ教会で働いていました。暫くして、神は私たちに子どもを託してくださいました。私たちの隣に赤ちゃんを寝かせて、私たちは寝た状態でオシメを替えて、その汚れたオシメをそのままトイレに捨てる、それらが少しも動くことなく出来たのです。それ程狭かったのです。そこで妻は子ども用の小さなベッドを購入して来ました。子どもにミルクを与えてゲップをさせて、そして、ベットにそっと横にして起こさないようにと注意を払っていました。そのベッドにぶつかることなく、その周りをそっと通り過ぎるようにします。そうでないと子どもが起きてしまうからです。

でも、時に私は朝の5時に、まだ暗いときに仕事に行かなければならないことがありました。電気をつけると起きてしまうので、電気を付けずに、起こさないようにとそっと出ようとしたときに、私の足が赤ちゃんのベッドの脚に当たったのです。ベッド全体が揺れたのです、子どもにとってはまさに地震が起こったかのような感じだったので。今でもそのときの息子の様子を忘れることが出来ません。息子は目を大きく開いて両手を大きく開いて私の方に向けて差し出すのです。息子は私の助けを必要としていると思いました。それを見て、私は実は嬉しかったのです。皆さんに隠し事を告白しなければなりません。彼が私を必要としている、余りにも必要としているその光景を見たので、私はベッドの横に立ってわざとベッドの脚を蹴るのです。ベッドが揺れる度に息子は両手を挙げて私を見ます。それを見ると、私は本当に必要とされていると思ったのです。確かに、これは実際に起こった面白いことですが、それに似たことがこの59篇に記されています。神はサウルがダビデを裏切ることをご存じだったでしょうか？ダビデを裏切ることを神は止めさせることが出来たでしょうか？兵士たちがダビデの家の周りを囲んで彼を殺そうとしていることを止めることが出来たでしょうか？殺そうとしている兵士たちを止めることが出来たでしょうか？神はそのようなことがダビデの身に起こることを良しとされたのです。まさに、神はダビデの生涯に地震を起こされたのです。彼は自分の義父との関係を失ってしまいました。そして、自分の家に居ながら自分の身に危険が及んでいたのです。兵士が取り囲んでいたからです。

ダビデが学んだことは、まさに自分は、ベッドに横たわっている自分では何も出来ない幼子のようなものであるということです。そして、先の作詞家に健康の問題があったように、また、私たちの教会の中で年金を失った人たちのように、そのような出来事は私たちがいかに弱い存在であるかということを示します。そのようなことが起こったときに、神が何を望んでいるのか？私たちが神の方に手を差し伸べて、そして、神に助けを求めるということです。まさに、私が自分の息子を見たときに息子が手を挙

げて助けが必要だと示したその姿です。そして、私がそれを喜んだように、神はお喜びになるのです。そのために1－8節が記されています。神はあなたが神に助けを求めることを望んでおられるのです。

ステップ2. ダビデは神に信頼した 9－15節

これはすべての人が経験する問題です。それは「待つこと」の難しさです。私たちは車を運転しているときに、運転が遅い人を何とか避けて早く進んで行こうとします。実は、先週、私たちは北京にいました。私たちはホテルでエレベーターに乗ろうとしてボタンを押しました。ご存じでしょう？中国はどれ程人が多いのか…。エレベーターが開くのを待っているときに周りにはたくさんの人が集まって来ました。ドアが開きました。私は1秒で妻がどこにいるのかを見ました。私はエレベーターに入るのですが、周りの人たちは私を押して一目散にエレベーターに乗ろうとするからです。というのは、みんな待つことが嫌いなのです。ですから、9節を見てください。「私の力、あなたを私は、見守ります。神は私のとりです。」この「見守る」ということばが英語の聖書では「待つ」ということばに訳されています。

私たちにとって人生とはまさに息子のいた小さなベッドのようなものです。私たちは自分が経験するいろいろな問題から逃げ出すことが出来ません。実は、そのことを私は昨日、近藤牧師がホテルで車から下ろしてくれた時に考えました。というのは、私たちがこの日本に着く前に中国で起こった地震の写真を見ていたからです。私たちが泊まったのは18階でした。考えてみると、日本には地震があるから、もし、ここで地震が起こったら18階に泊まっている私たちはどのようにして逃れることができるだろうかと考えました。もし、皆さんが地震が嫌いなら日本を出たら良いでしょう。中国に行って鳥インフルエンザを経験なさったら良いでしょう。ひょっとして、私たちの国に来てくださったら、そこでは幅が1.6キロもあるような竜巻が起こります。かつて、私が住んでいたオクラホマに皆さんが来られるとしたら、何マイルもの山火事が起こります。韓国に移ったなら、北朝鮮から3万3千発のミサイルが向けられているような状態です。つまり、どこに行っても安全な所はないということです。

つまり、息子のいたベッドのように、いつもそのベッドは揺れているのです。私たちがしてはいけないことは「問題から逃げ出すこと」です。9節のみことばが教えるのは、ダビデはその問題から逃避したのではなく、その中であって神のみわざを待っていたということです。神は私たちに大変な困難を与えて、そして、それを通して私たちが神に助けを求めることを求めておられます。そして、神が私たちを助けると言われたとき、この9節で教えるように、それは決して私たちから困難を除くということではありません。9節の「守る」とは、皆さんが問題から逃げることがないということを教え、その中であって皆さんが神に助けを求めるということです。

ダビデは非常に大変な困難な中にいました。1－8節が教えるのは、神に助けを求めたということです。そのような恐れを経験している中でダビデがしたことは主に信頼することです。それが9－15節に記されています。

ステップ3. ダビデは神にあって勝利した 16－17節

ダビデの生涯において神が何を望んでおられたのか？皆さん、お分かりですか？ダビデが16節に記されていることを為すことを神は望んでおられたのです。16節「しかし、この私は、あなたの力を歌います。まことに、朝明けには、あなたの恵みを喜び歌います。それは、私の苦しみの日、あなたは私のとりで、また、私の逃げ場であられたからです。」、ダビデは神を見上げて歌います。神はサウルのダビデに対する憎しみを取り除かれていませんでした。というのは、サウルの兵士たちは決してダビデを追いかけることを止めませんでした。もっと多くの兵士たちがそこに加わってダビデを追いかけました。神はダビデの問題を取り除きませんでした。神がダビデに望んでいたことは、この16節に出て来ます。神が望んでおられることは、その恐れの中であって勝利を得ることです。そして、ダビデがしたことが16節に記されています。16節のみことばは非常に個人的に記されています。「この私は、…、私の苦しみ…、あなたは私のとりで、また、私の逃げ場…」と。ダビデは揺れ動く状況から逃れることよりも、その中で勝利を得ることを望んだのです。「あなたの力を歌います。」と「歌う」ということが記されています。

これは、実際にパウロの生涯で起こったことです。皆さんご存じですか？パウロは捕えられて鎖につながれ、むちで打たれました。パウロの両手両足は縛られていました。彼の手足からは血が流れ落ちていたのです。このような大変な牢獄の中で、痛みの中で、パウロはどのように勝利したのでしょうか？ダビデがしたことと同じでした。ダビデがしたように「あなたの力を歌います。あなたの恵みを喜び歌います。苦しみの日…」と賛美したのです。パウロがしたことと同じようにダビデ自身も、そのような問題の中であって「神さま、あなたは偉大なお方です。」と神を誉め称えるのです。ですから、このダビデの生涯を通して、神は私たちに大切なレッスンを教えようとしてくださっています。

確かに、神は私たちの生涯においていろんな問題を起こすようなことを止めさせることが出来ます。でも、ほとんどの場合、神はそんなことはなさいません。私たちの人生が揺れ動いている時に、神が望んでおられることは、神を喜びを歌うことです。実際に、キリスト教の歴史の中で、ローマ帝国がクリ

スチャンたちを殺害していった時期があります。ある一人の人物はローマ皇帝の前に連れて来られ、皇帝から「あなたがキリストを宣べ伝えることを止めないならあなたを投獄する。」と言われます。彼は「あなたは私を投獄することは出来ても、この神を取り除くことは出来ない。」と答えます。ローマ皇帝は「あなたを殺そう」と宣告します。彼は「あなたは私を殺すことは出来ます。でも、私には永遠のいのちがあります。」と答えるのです。皇帝は確かに彼を投獄しました。パウロと同じように、彼もその牢獄の中にあってキリストを証したのです。

大変な時に神があなたに望んでおられることは、皆さんが主にある力を見出すことです。困難な中であって、私たちはどのように自分自身を強めていくことが出来るのか、そのことについてこの詩篇59篇は教えてくれました。皆さん自身がここから大切なことを学んでくださることを願っています。

レッスン

1. 詩篇59篇において、困難を切り抜ける三つのステップをダビデは記しました。それらを簡単に説明してください。
2. これらのステップは、あらゆる試練に勝利するための「神の道」を表わしています。その理由を説明してください。
3. この詩篇59篇を自分に適用してください。あなたが神の防衛、恵み、保護、支配、そして、逃げ場を特に必要としているのは何でしょうか？